

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100177		
法人名	有限会社 ひかり		
事業所名	グループホーム ひかりの里		
所在地	〒821-0012 福岡県嘉麻市上山田1094-84	TEL	0948-52-0101
自己評価作成日	平成 23年07月13日	評価結果確定日	平成23年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年09月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人のニーズに対応し、日々の暮らしが満足できる物に近づけるように、室内外のレクレーションなどを催して季節の行事を行い、一人での買い物や散歩、散歩などにも対応しています。家族や友人など会う事ができるように、送迎や連絡の援助もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ひかりの里」は、小鳥の声や、爽やかな風が吹き抜ける、環境に恵まれたグループホームである。オーナー夫妻の介護に対する熱い思いを職員全員が理解し、利用者や家族から、「ここで暮らせて良かった」と思われる介護サービスを目指し、さまざまな取り組みを実践している。運営推進会議を活用した、多目的な取り組みは、多くの家族の参加と協力を得て、利用者、ホーム、家族の信頼関係は、深いものがある。近隣の福祉施設との交流や、地域の行事に利用者職員が参加し、開設9年目を迎え、地域に根づいたグループホームとして相互信頼関係の構築が始まっている。また、園長は、職員が、仕事に対する責任と誇りを持ちながら楽しく働けるための環境整備と、意識の高揚に努め、利用者一人ひとりに充実した介護サービスが出来る体制の確立を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症になっても地域で生活できるホーム」を目指し、事業所独自の理念をつくりあげている。スタッフルームに理念を提示し、申し送りの際、折に触れわかり易く話し、実践に向けて努力している。	人としての尊厳と自分らしさを大切に、新しい家族として共に笑顔で生き生き暮らし成長していくことを、ホーム独自の理念とし、スタッフルームに掲げ、職員は常に目にする事で理念を理解し、実践に向けた取り組みがある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、交流を持っている。	社協の音楽コンサート、クリスマス会、グループホーム協議会のお手玉大会、行政の餅つき大会などの行事に、利用者職員は出来るだけ参加し、また、夏の祇園祭に獅子舞、盆踊りの方たちが来訪して下さるなど、地域住民と交流を図り、グループホームとしての認知度も年々高まり、協力関係が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様からの相談事があり、相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に取り組みだしたところであり、入居者間や、家族間の交流を深める事が出来てきている。また、家族の方とは月に1度は園長が会う機会を設け、家族の意見を聞き取り、サービス向上に活かす事が出来ている。	会議には多くの家族の参加があり、様々な意見、情報の交換の場として、充実した会議となっている。今後は、会議がマンネリ化しないよう、他の事業所のケアマネに声をかけたりして参加メンバーの拡充を図り、新しい発想で会議の発展に取り組む準備がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケースワーカーの方と入居者個人の事や、家族の事に関しても情報の交換が出来ており、サービスの向上に貢献できている。	運営推進会議に、行政職員が参加し、情報や意見を交換し、ホームの現況を理解してもらっている。また、ケースワーカーと話し合い、利用者が安定して穏やかに暮らせるよう支援する等、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、研修を行い、職員は身体拘束が利用者にとりだだけの弊害をもたらすかを理解し、職員同士で見守りながら、身体拘束のない介護サービスを実践している。また、ホームの前の通りは大型自動車が高頻に走るため、利用者の安全を考えて、玄関の鍵を施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等に参加し、権利擁護等についても学び、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については折にふれ学習している。今のところ入居者の方には家族がおり、必要とされる方はいない。	権利擁護に関する制度の理解と、活用のための外部研修に参加し、職員全員が理解するための勉強会を開催し、利用者、家族が制度を必要とする時に協力できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかり易い説明を心がけ、不安や疑問については必ず何度か尋ねるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を玄関に設置している。入居者や家族からスタッフへの意見等を出しやすい雰囲気づくりに努め、意見等あった時には、苦情処理担当者、機関へ報告し対応出来るようにしている。	運営推進会議を活用した家族交流会を開催し、多くの家族の参加があり、活発な意見や要望を聞きだし、有意義な行事の一つとしてホームの運営に反映させている。また、不参加の家族には、電話や来訪時に利用者の状況を詳しく説明し、希望、要望を聞きだしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを開き、スタッフ皆で意見の交換等、行えている。	毎月、職員ミーティングを開催し、全員参加を原則とし、職員同士の活発な意見討議の場として重要な会議となっている。また、出された意見は出来るだけ運営に反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その時々々の状況に合わせて、勤務時間等、調節している。スタッフに異動はなく、スタッフが仕事をし易い環境作りに努力し、離職は必要最小限度に抑えられており、利用者へのダメージは防げている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフの募集については年齢や性別の制限はしておらず、働いているスタッフには働きやすく、仕事以外の生活にもゆとりが持てるように職場の環境作りには充分配慮している。	職員の休憩室やロッカー、休憩時間を確保し、リフレッシュしながら働ける環境である。また、幅広い年代の職員が、離職も少なく安定して働き続けており、希望休日の保障や資格取得支援など、職員が働き易く、やる気を引き出す工夫がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権についての講習等ある時には、積極的に参加するよう促し、人権に対する意識を高めるよう取り組んでいる。	グループホーム協議会や行政主催の研修会で、利用者の人権尊重について学び、ホーム内の勉強会で職員全員が理解し、人権教育・啓発活動に取り組む姿勢が見られる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会と地域の勉強会の2つの活動に参加させてもらい、職員の育成を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは交流を持ち、情報交換等行っており、勉強会などにも参加させてもらい、質の向上に向けて取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談等、希望があれば、いつでも受け付けており、その際に困っている事、不安な事等ないか尋ね、聞くようにしている。何かあればそれに対して出来るだけの対処をするよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談等、希望があれば、いつでも受け付けており、その際に困っている事、不安な事等ないか尋ね、聴くようにしている。何かあればそれに対して出来るだけの対処をするよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、しっかりと話を聴き、何に困っているか、何を必要とされているかを把握し、入居にこだわらず出来る範囲での支援に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事はなるべくしてもらい、役割を持ってもらうよう働きかけたり、畑を耕し一緒に収穫する等、得意な分野は教えてもらったり、手伝ってもらう事を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と連絡を取り合い、出来るだけ利用者に顔を見せてもらうように働きかけている。その中で本人の為に協力して欲しい事などあれば相談出来る関係を築けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方には出来るだけ月に1回以上は来てもらえるように働きかけ、必要に応じ、送迎なども行っている。馴染みの人には遊びに来てもらいやすい対応に努めている。	職員は、利用者と話す機会を出来るだけとることで、行きたい所、したい事、会いたい人などを聞き取り、家族と相談し、協力を得て、馴染みの方々の関係継続に向けた支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に務め、利用者同士が支えあえる良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、関係を持ち、利用者や家族から相談を受けて、その状態が落ち着くまでは必要な支援を出来る範囲で行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのニーズの把握に努め、思いを表現出来ない方には利用者本位の視点から支援している。	職員は介護日誌の中に、利用者の思い出話や独り言を克明に記録し、家族に閲覧し、利用者の思いや意向を共有し、理解しながら、一日一日を大切にしたい介護サービスを目指している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの、これまでの生活や暮らし方を、家族や本人、関わりのある人から話を聴く等して利用者個人の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一ヶ月に1度はケアプランの評価を含め1人の利用者についての話し合いを持ち、朝・夕の申し送りで行き渡り日々の状態をスタッフ皆が把握出来るようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見や希望を聞き、利用者からはニーズを汲み取ってケアプランに反映させている。3ヶ月に1度は見直しを行っており、状況に変化があった際には、その都度プランの見直しを行っている。	スタッフ会議やカンファレンスを通して、利用者や家族の意見を大切にし、職員の気付きを反映しながら、定期的に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や関係者と連絡を取り、話し合い、その都度、介護計画を見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かく日誌に記録しており、申し送りによって情報の共有をしている。その上で日々のケアの実践に取り組んでおり、プランの見直しにも役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には2～3度来てもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前に本人が受診していた病院を継続して受診し、医療機関と連携をとるよう努めている。	利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医受診の支援をしている。また、提携医による定期的な往診で利用者の健康を管理し、24時間の医療連携のもと、利用者がいつまでも安心して暮らせる体制を構築している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに近隣の日赤病院に長く勤めていた看護師がおり、日常の健康管理や、日赤病院との連携がスムーズに行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には医療機関と家族の方と情報交換や相談をしながら、適切な退院時期を決めるよう努めている。また、入院中のお世話に関しても出来る範囲で家族と共にやっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から情報交換を密に行って、状態が悪化した時の対応について話をもつようになっている。	看取りの指針を作成し、利用者、家族に承認をもらい、ホームで出来ること、出来ないことを簡潔に明示している。また、利用者の状態変化に合わせ、その都度、家族や関係者と連絡を取り、確認しながら、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命処置の講習を定期的にスタッフ全員受講している、		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている、消防署の指導を全職員受けています、	家族や関係者が参加し、定期的に避難訓練を実施している。出火場所を想定し、非常口や消火設備の点検と合わせ、職員一人ひとりが責任を持って訓練に参加している。	非常災害時、電気、水道、ガスなどが使用できない場合を想定した、非常食の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で利用者の尊厳を傷つけないように配慮しており、個人情報の取り扱いに関しても、十分に気を配っている。	職員は、人生の先輩である利用者を敬愛し、優しい言葉遣いや、プライドを尊重した見守りなどで、利用者の尊厳を守る介護サービスを実践している。また、個人記録などは人目に触れない場所で保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞きだせるように、コミュニケーションを取り、信頼関係を築く事に努めている。また、思いを表しにくい方には、気持ちを汲み取れるように細かな観察も行い支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等、基本的にスタッフの都合ではなく、利用者の希望で入れるように支援している。利用者の希望があれば、出来るだけ希望に添えるよう援助している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装などには配慮しており、希望がある方は、希望の美容室等を利用してもらえるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ好き嫌いがあるので、時々好きな物を提供するようにし、出来る範囲で手伝ってもらっている。	専門職員の作る美味しい食事を、利用者はほとんど完食し、利用者の健康の源となっている。また、食事介助する職員との会話は弾み、利用者の食欲増進に繋がっている。	利用者と職員が、同じテーブルで家族のように一緒に食事をしながら、楽しい時間を過ごす事、また、検食をして、味、盛り付け、硬さなどをチェックし、より利用者の満足する状態を検討する体制作りを期待したい。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェック表に記入し、利用者一人ひとりの状況を把握しており、摂取量の少ない方には個々に応じて摂取量アップへの工夫や働きかけを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている、歯ブラシを拒否される、入居者に対してはうがいで対応していて、週に1度の訪問歯科のDrにより対応していただいている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄するように援助しており、尿意や便意がわからない方でも時間を見て誘導するなどして失禁を減らすよう支援している。	職員は、排泄チェックシートで、利用者の排泄パターンを把握し、細やかな見守り、さりげない声かけでトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘が続く事のないように気を配り、便秘がちな利用者にはおやつに牛乳やヨーグルトを出したり、散歩や歩行練習等を促したりしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に利用者の希望された時に入浴できるよう支援している。	入浴は、利用者にとって楽しみなことと考え、利用者の希望を大事に、毎日入浴できる体制がある。また、入浴を拒まれる方に対しては、職員が代わったり、気分転換をしてもらうなど工夫しながら、無理強いせずに支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい希望があれば、状況に応じて時間に関わらず休んでもらっている。また、個人の身体・精神状況や習慣に対応して適当な休息を取れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、いつでも確認できるようにしており、薬の変更などあった時には個人ノートや日誌に記録し、確実に申し送っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には役割を持ってもらうように支援し、掃除などをしてもらったり、畑の世話を楽しみにしてもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望と状況に応じて、その都度外出の支援を行っている。	利用者は、広いホームの敷地の中を自由に散歩し、畑の世話など、太陽の光を浴びながら、健康的な暮らしをしている。また、英彦山の道の駅や足湯、花見、外食など、利用者の意向を尊重し、季節に応じて外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方には小額のお金をもってもらっており、外出時等にお買い物を楽しませている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙の支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車の音がうるさい方には、窓は2重にして、直射日光がまぶしい所は遮光フィルムを窓に張ったりしています、玄関など外部の人が入ってきた時など直接、見えないように鉢植えの植木を置いています。リビングにも植木があり季節感があり、食事メニューも季節の物を優先して取り入れています。	自然に恵まれ、居ながらにして四季を感じることが出来る共用空間は、のどかで安心した暮らしを継続できる環境である。また、廊下やトイレ、風呂場など、バリアフリーを完備し、安全にも配慮している。壁には、貼り絵、習字の作品、行事の写真などが飾られ、家庭的な温かさが感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のコーナーやリビングのコーナーなどに数人座れるスペースをつくり、利用者の気の合った人同士で話やお菓子を食べたりしながら楽しんでいらっやいます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重して自分で使っていた物などを希望する配置で居室を準備しています。又家族の写真など身近な人をいつも見ることが出来る様にしています。	居室は、利用者や家族の希望を取り入れ、馴染みのものや大切なものを持ち込んでもらい、出来るだけ、自宅と違和感の無い、居心地のよい暮らしができるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内にも必要に応じて介護ベットや手すり、センサーマットで危険回避し、ポータブルトイレも利用している、又、視力低下が多々あるので、廊下なども採光を良くしている。		